

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2770302202		
法人名	社会福祉法人 月の輪学院		
事業所名	グループホームつかさの家		
所在地	大阪府寝屋川市仁和寺本町2-3-5		
自己評価作成日	平成 29年 2月 3日	評価結果市町村受理日	平成 29年 4月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JikyosyoCd=2770302202-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 3月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在入居されている利用者の特性を踏まえて、私達の目標「我が家のような温かい家」「楽しいときも、苦しい時も利用者一人一人と諦めないで向き合っていくことを大切にします」をスタッフ全員で、胸に刻み、日々支援に励んでいる。個性豊かな利用者に合わせて、スタッフ一人一人の個性を上手く生かした支援に取り組んでいる。一対一の関係を重要視している。施設に入ったからこそ、出来る看取りに向けて努力していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年、障がい者支援に尽力されている社会福祉法人が開設して11年目の1ユニットの事業所です。近隣には同法人の知的障がい児施設や障がい者の施設があり、代表者等からアドバイスを受けながら運営しているホームです。豪邸を改装したホームは閑静な住宅地の一角にあり、広い庭園は地域住民による手入れによって季節ごとに違う景色を楽しむことができます。特に管理者は「おいしい食事を提供することは生きることにつながる」を支援の基本にしており毎日、キッチンスタッフが心のこもった食事やおやつ、行事食を作っています。利用者は「おいしいね、最高やね」と食事を楽しみながら会話をしています。看護師でもありケアマネジャーでもある管理者は利用者・家族、職員から安心と信頼を得ています。職員は勤務年数も長くなり、資格取得に取り組んでいます。ボランティアや地域住民の協力も多くなり、交流が進んでいることを大切にしています。今後も更にケアの向上を目指し切磋琢磨している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>利用者の入退居に伴い、今のつかさの家の利用者にあわせて、目標をスタッフと考え「私達の理念」として掲げ、各職員全員仕事中は、理念を必ず1回は自分の眼で確認できるようにポケットに携帯している。事業所内にも掲示し、利用者の家族様にも文書で報告している。</p>	<p>管理者や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。法人理念のもとに「私達の理念」をホーム理念として玄関、ダイニング、事務所内に掲示しています。管理者・職員は毎年話し合っ「私達の目標 1我が家のような温かい家2楽しいときも、苦しいときも、利用者一人ひとりと諦めないで向き合っていくことを大切にします」と分かりやすく具体的にした今年の目標を作成し、名札やポケットの中に入れて携帯し、理念達成のため日々介護実践に活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日の散歩は継続している。その中で、顔見知りでお声を掛けていただくことも多い。地域の方が入居された際は気軽にホームに顔を見に来てくださり、その際入居前の様子などを話していただけ、つながりが増えている。また、自治会主催の祭りや清掃に参加したり、地域のふれあいサロンにも利用者が参加している。又キッチンスタッフとしても地域の方が手伝いに来ていただいている。	ホームは、町内会に加入しています。利用者と職員は、地域の夏祭り・秋祭り等に参加し、神社での清掃活動にも参加をしています。ホーム入口にある花壇や中庭には、近隣住民の協力で整備された季節の花々が咲いています。利用者は、毎日の散歩時に、入居以前に暮らしていた家の近隣の方と挨拶を交わす等しています。地域のふれあいサロンに利用者・職員は参加をして歌体操やお茶を楽しむなど地域住民との交流が進んでいます。また車椅子ダンス・懐メロ・手遊び・ハンドマッサージ・草ぬき等多くのボランティアとの交流も利用者の好評を得ています。管理者は、民生委員の依頼で「認知症について」の講演を行う等地域で必要とされる活動も積極的に行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	毎月「つかさだより」を地域の人々に発行している。 又、ホームページも立ち上げ、広く事業所が見える形で発信している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は2か月に1回開催している。今年には家族の代表者の方に参加していただき、支援の状況に関して一緒に考えてくださり、個別支援に取り組むことが出来た。</p> <p>毎回、意見交換が活発で、民生委員の方は支援のヒント、自治会の方は防災のヒント、老人会の方は地域の情報など、委員の方々がそれぞれの得意分野の情報交換ができ、支援に活かすことが出来ている。</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回開催し、議事録を作成しています。会議は、家族会代表、市議員、地域包括支援センター職員、自治会長、老人会長、民生委員、理事長、管理者、職員等の構成となっています。利用者の状況、支援の状況、行事報告、防災等の活動報告等議題にしています。また管理者は運営推進会議の中で勉強会を実施して「認知症」に対する理解を深めるための取り組みも進めています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>地域包括センターと日頃から連携を取り、困難ケースなどの依頼も積極的に受け入れている。市の担当課へも介護保険の申請の際に相談をし、助言をいただいている。寝屋川市の地域の民生委員からの依頼で「認知症について」の講演を管理者が市の福祉センターで開催した。</p>	<p>市の担当課とはいつでも相談できる関係にあります。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議において報告、相談をして、情報提供や助言を得ています。前回課題としていたボランティアの要請を市の社会福祉協議会にしたところ、多くのボランティアの協力を得ることができました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、門扉はあいており、面会者、スタッフが入り出るドアには施錠はせず、自由な暮らしを提供している。今年度は、常時見守りが必要な人に対してのセンサーに対する勉強会を、身体拘束についての勉強会の中に組み込んで、話し合った。</p>	<p>職員は外部・内部研修会に参加をして身体拘束をしないケアに取り組んでいます。身体拘束排除マニュアルを作成しています。ホームでは日中は門扉が開いています。大きな門扉の中には庭園が広がっており、利用者は自由に入ることができます。職員は常時見守りが必要な利用者に対してのセンサー対応について勉強会で話し合いをしながら見守りの支援に繋げることができました。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての勉強会を管理者が中心となって行った。言葉遣いなども含めて、スタッフひとりひとり振り返る機会を作っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>運営推進会議のメンバーの方に成年後見人の方がおられ、スタッフも学ばせてもらう機会を設けている。身寄りのない方には、社会福祉協議会を通じて、日常生活自立支援事業を活用していきたい。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、必ずわかりやすく説明するよう、心掛けている。特に料金(お金)に関わることは、不安・疑問がないかを確認している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会の際に家族様には「何かありませんか」と尋ねている。毎月のお手紙に、事業所の運営に関して情報発信している。意見箱を設置している。遠方の家族様からは、手紙(書面)で意見を頂けている。</p>	<p>家族が面会に来ると、利用者の日頃の様子を伝えています。意見箱は玄関入口に置いていますが、家族は意見や要望があれば面会時に直接職員に伝えられる関係にあります。家族には、毎月利用料の請求書と一緒にホームの機関誌「つかさだより」と、管理者、担当職員手書きの「手紙」で日頃の様子を知らせています。ホームからの便りに、家族からお礼や利用者がどのように過ごしていたかを書いた返事が届くこともあります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者は、法人の理事、施設長を兼ねているが、必ず職員や利用者の顔を見に来ていただき、交流を深めている。 毎月の職員会議で運営に関しての疑問を直接、管理者、リーダーが代表者及び事務長と話し合う機会を作っており、意見交換し、アドバイスもいただいている。</p>	<p>管理者は、月1回月例会議を開催し、職員が意見や要望を出せるようにしています。会議では、業務やケアについて意見を出し合っています。会議に参加できなかった職員には会議録を回覧して確認をしています。不定期に法人理事長、事務長等と話し合う機会があり管理者、リーダーは運営上の課題について意見交換やアドバイスを受ける等しています。また、職員の要望によりAED(自動体外式除細動器)が設置されました。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>常勤・非常勤問わず、個別に話す機会を設け、労働環境・やりがい・給与などについての意見を聞くように努め、法人代表者と話し合っている。 リーダー手当、夜勤手当を、資格手当などを充実させていく予定である。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフの個々の得意、不得意を踏まえた上で、本人の希望と、ステップアップを期待した更なる研修を受けるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの管理者・代表者研修の実習の受入施設として、他施設との交流があり、スタッフが、他施設への見学実習などを実際に行い、サービスの質の向上及びスタッフの刺激にも繋がっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談の際はまず、入所してもらう事ではなく、本人の声に耳を傾け、本人の不安がなんであるかを根気よく聞くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には、不安なことをひとつひとつわかりやすく説明しながら、時間をかけて信頼してもらえるように努めている。 体験入居などからまず始めてもらうことにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を前提としたサービスの枠だけにとらわれず、体験入居などを通して、利用者・家族にとって、今どのようなサービスが必要なのかを専門性をもって見極めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に暮らしを支え合う関係づくりに努めている。 利用者一人一人の能力に応じた役割分担を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方で面会に来られない家族様には手紙か電話で、利用者との関係が、疎遠にならないよう努めている。 スタッフと共に、支え合う一番大事な存在であることを忘れないで支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が施設に遊びに来られたり、本人の希望で、今迄外食していた場所に行くこともある。家族が遠方の方には、手紙・電話でのやりとりを必ずしている。本人の楽しみが何かを知り支援に努めている。	利用者は、入居前に利用していた近隣にある馴染みの医療機関に出かけています。医療機関の帰りに家族と外食を楽しんだり、自宅に寄り仏壇に手を合わせる利用者もいます。好きな歌手のコンサートに職員と一緒に出かけることもあります。職員は、はがきの代行をするなどして馴染みの方や場所との関係が途切れることがないような支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入院や、退居に伴い利用者が不穏になる場面が何度かあり、利用者同士の深いつながり、支え合いが大切だと感じている。食事や団らんの中で自然につながりが持てるよう橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、手紙や電話を通じ交流を図るよう努めている。 他施設に転居された利用者のケアマネージャや相談員とも連絡を取り、関係を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ひとりひとりに受け持ちのスタッフを決め、担当スタッフを中心に馴染みの関係を築き、会議や毎朝の申し送りの際、ショートカンファレンスを通じ思いや意見を検討している。入居一週間は自由に、気づいたことをどのようなことでも、書くようにしている。	計画作成担当者は、利用者・家族から入居時に一人ひとりの思い、意向を把握し介護計画に活かしています。入居後は、担当制のもとに24時間単位のシートやモニタリングチェック表に気づきを毎日丁寧に記録することで、利用者一人ひとりの思いを汲み取るようにしています。管理者・職員は、利用者の思いや意向に更に沿えるよう何気ない会話や様子を詳細に記録して把握するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとりの利用者様の息子様より、毎月今までの生きてきたお母様との思い出・エピソードを書いたお手紙を頂き支援のヒントにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理日誌を通じて、情報共有に努めているが日勤、夜間帯にも気づきの欄を設けることで、利用者の変化をスタッフ全員が共有できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、全体会議の中でケアマネジャーが中心となってスタッフ間で支援の方向性を検討している。利用者の支援の状況、問題点を挙げ、アセスメント、計画は6か月ごとに行い、モニタリングは2か月に1回行うように努めている。 介護計画表は認知症の症状に関わらず、必ず利用者本人に説明し、署名をもらっている。	ケアマネジャーでもある管理者は、介護計画を原則6か月毎に見直しています。利用者の変化があるときは、都度見直します。モニタリングは2か月に1回行い、月例会議の中でケアカンファレンスを実施しています。担当者会議に家族が参加をする場合もあります。介護計画は、必ず利用者本人に説明し、同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はSOAPを取り入れ、要約は特記事項を中心に、朝の申し送り、ミーティングを実施し、情報を共有、実践し、再アセスメントしながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者にとって大切な友人との交流も積極的に深め、馴染みのお風呂や食事と一緒に協力してもらっている。 利用者が入院などされた場合、本人が家族以外で落ち着くスタッフや、友人などにも付き添ってもらうことが出来、利用者の思いに応じた家族や友人、スタッフ全員が協力するよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の方だと顔なじみになっているため、地域の方々が見守ってくださっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望する場合は継続している。 必ず看護師である管理者が病状の説明、薬の変更など、利用者の受診時同行し、専門的な立場から医師へ状態を説明している。 受診が困難な場合は、かかりつけ医からの往診も行ってもらっている。 月1回の嘱託医の受診で相談もしている。	基本的に、入居前からかかりつけの医療機関へ受診を継続しています。法人の嘱託医は月に1回往診があり、日常の健康管理はホームの看護師でもある管理者が行い、状態に変化があればそのつど嘱託医や主治医に往診してもらい、必要な指示を受けています。歯科も往診があります。夜間や緊急時は管理者が主治医に連絡する24時間の連絡体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師を兼務しているため、日々の利用者の異常の早期発見に努めている。管理日誌には、看護師からの指示欄を設け、相談や説明をスタッフにする機会が毎日ある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が看護師・ケアマネージャーを兼務しているため、中心となって入院から、退院まで相談員・関係者などと情報交換をおこなっている。 スタッフも入院した際は、必ず、担当者を中心に、馴染みの関係を維持するためにも面会に行き、状態把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	1名看取りを進めていく中で、家族の意向や、かかりつけ医の訪問診療の夜間体制など、話し合いを行い、スタッフにも看取りについて研修を行ってきた。しかし病院で急変する事例があった。今後課題を話し合い、看取りを希望される方に対して準備を進めていきたい。	入居時に「終末期における看取り介護の指針」によって利用者、家族に説明をして同意書を得ています。家族の希望により看取りを進めていきましたが、病院で急変された事例がありました。ホームでは嘱託医を交え、看護師でもある管理者、職員ともに看取りの研修を行い、一緒に話し合うことを重ねながら、看取りの支援方法についてマニュアルを整備しています。ホームでは今後も家族の希望があれば看取りを行っていく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置や、急変時の対応など勉強会などでスタッフ全員に訓練を行っている。 法人全体でAEDの設置を検討している。急変や事故発生時の連絡体制も周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>いつ起こるかわからない災害に備えて年2回の避難訓練の実施や緊急連絡網で連絡がきっちり本当にまわるか職員に予告せずに行ったり等、独自の取り組みを継続している。地域運営推進会議にて過去の地域での災害時の話をうかがったり、洪水時避難できそうな建物を教えていただいたり、自治会長より地域防災のお誘いを受け毎回参加させていただいている。備品は各階、ガレージなどに保管し万が一の時に供えている。</p>	<p>消防署と連携して年2回の避難訓練を行っています。地域運営推進会議にて自治会長から地域の水難事故の話や洪水時の避難場所の説明を受ける等しています。委員からの提案で、避難訓練計画を職員・利用者に事前説明をしない本番さながらの通報と初期対応についての避難訓練を実施しています。また、自治会長より小学校で開催する地域防災訓練の情報を得て、管理者は毎回参加をしています。災害マニュアルを整備しています。災害用備蓄は、各階、ガレージに保管し、備蓄表で管理しています。利用者・職員手作りの防災頭巾も準備しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることを念頭に置き、トイレのさりげない声掛け、入居者の大半が女性であることから、アクシデントなどおこった時は、必ずプライバシーに配慮し、同性介助にし、男性と女性の役割分担がスタッフの間で出来ている。 個人情報には必ず、利用者から自らスタッフに話しをしても傾聴し、それを他者に漏らさないようスタッフ間で、徹底している。	法人理念にも利用者の人権の尊重を謳っており、利用者は人生の先輩として尊重し、馴れ合いにならないように、見守る距離感を大切にしています。 排泄の介助時は利用者の羞恥心に配慮し、さりげない声かけを基本としています。また入浴介助の際には、利用者のニーズに合わせて同性介助を行うなど、一人ひとりに合わせた丁寧な支援が実践されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1対1の個別支援を大切にしている。 散歩や食事、日々の暮らしの中で本人の想いを聞けるよう、ゆっくり、側にいることを大事に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に応じた生活のリズムを作ってあげる様、努めているが、本人の好きな事や得意なことを、共同生活の中で役割を持って過ごしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は必ず、個別の化粧ポーチを作り、整容の時間をとり、出来る人はしてもらい、出来ない人はスタッフが美容部員となって手伝っている。 服なども一緒に買い物に行き、選んで貰っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンスタッフが料理をしてくれているが、盛り付け、お茶の準備やおしぼりたたみを利用者と一緒に行っている。 月に1回手作り料理、利用者の希望で庭でのバーベキューをしたり、好まれる方には個別のヨーグルトを毎朝とったり、お酒なども飲んでもらっている。 食事中は時々で、音楽を流している。	献立と食材が業者より毎日届けられ、調理専門のキッチンスタッフが、できるだけ利用者の食べやすいものや好みの物にアレンジして提供しています。 広いオープンキッチンからは、食材を切る音、ごはんの炊ける匂いなどがリビングに広がり、利用者の五感を刺激するような食事風景になっています。 毎月1回は手作り料理の日として、利用者の食べたいメニューを聞いて、食材の買い物、調理、盛り付けなどを利用者と一緒に行っています。またホームの行事である個別外出の時に、買い物をしたあと食事や喫茶を楽しんだり、春、秋の遠足時などお弁当や懐石料理を楽しむなどしています。管理者は「おいしく食べることは生きること」を食の支援の基本としています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の元、バランスの取れた食事になっているが、個々に応じた量は調節し、嚥下困難な方には一口大に刻み、ムース食など工夫しているが、美味しく食べることを忘れず、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきを実施している。義歯の人には、夕食後預り洗浄している。嚥下能力の向上の為、食事前の口腔体操をしている。訪問歯科も定期的に来ていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンごとに排泄表で確認しながら、個別に声掛けを行っている。基本、布パンツで対応し、本人の状態に応じて、リハビリパンツ、パット、おむつに変更するときなどは、話し合っている。常時おむつの人も、羞恥心に配慮したおむつの変更など、勉強会を実施している。病院から施設に入居された利用者で、おむつからリハビリパンツに変更し、尿意のサインを知り、トイレでの排泄に至ったケースがある。	「排泄表」にもとづき、利用者の排泄パターンを把握して、個別に声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援しています。入居前にオムツ使用であった方が、日常の関わりの中で、排泄に関する利用者のサインを把握することによって、根気よくトイレ誘導の支援を行った結果、トイレでの排泄が可能になった事例があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用せず、朝のヨーグルトや、オリゴ糖を個々に応じて使用している。運動や、朝一番にトイレにゆっくり座るといった環境調整にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回入浴の支援を行っている。1対1で、同性介助にするよう配慮している。受診、リハビリなどがある日は避けて、ゆっくり入浴を楽しめるように心掛けている。入浴中に、歌を披露するのが日課になっている利用者もいる。入浴拒否の方には、根気よく、無理強いしないよう、清拭、ドライシャンプーなどを使用している。	浴室は明るく広々としており、大きめの個浴が設えてあります。入浴日や時間は特に決めずに、毎日いつでも入れるように準備しています。利用者は2日に1回は入浴しています。長いあいだ入浴習慣がなかった利用者は入浴を好まないこともありますが、その方のペースに合わせて無理強いせずに、ゆっくりと関わることによって、いまでは週に1回は入浴するようになっています。柚子湯や菖蒲湯など季節感を取り入れながら、歌を歌ったり職員と会話をしながら、楽しく入浴支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リクライニングチェアで日中でも少し休めるように調整している。独りが不安な人は、昼寝などはせず、職員と一緒にお茶などを飲んで過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より、個人チャートに今現在服用している薬の説明紙をはさみ、いつでも把握できるようにしている。 薬の変更調節などはその度、申し送りをきっちりとしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ってもらえるよう、本人の能力、出来ること、そして楽しく行えることを日々スタッフと話し合い工夫している。 そして、スタッフも、利用者が頼れる存在であることを伝え、喜びを感じてもらえるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本、個別外出を行っている。毎朝、化粧をし、散歩に出かけている。本人の希望に合わせて、ショッピングや外食を取り入れている。1対1の通院の際も、通院後に、食事やお茶を飲むように支援している。昨年は外出できない利用者の希望を叶え、庭でバーベキューを楽しんだ。友人との外出も約束事を説明し、定期的に行っている。	毎日個別に外出することを支援しています。天気の良い日は近隣への散歩に職員と出かけています。また地域の行事の清掃やふれあい喫茶などにも出かけています。外出ができないときは庭に出て花や木を眺めながら、外気浴を楽しんでいます。初詣、桜のお花見、秋の紅葉など季節ごとの外出にも取り組んでいます。月に1回は個別外出として利用者の行きたいところへ職員と出かけて買い物や食事などを楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に対して利用者の希望にあわせて所持することになっている。 現在は、買い物など、利用者と一緒に行くときには、自分の財布でお金を支払ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は基本、本人の希望で行っているが、言えない人や、遠方の人には定期的にこちらからコンタクトをとっている。 手紙は定期的に、遠方の家族とやり取りをし、疎遠にならないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広く、開放感があり、リビング・ダイニングからは、庭が見え、季節の花を楽しむことが出来る。キッチンから食事を作る音や、匂いを五感で感じながら、自然に食事の準備(お茶入れ、お箸置き)をしてもらうように努めている。 ダイニングには利用者の作品や、スタッフの大切にしている言葉なども掲示している。日中ほとんどの人が、自然にリビングに集まり、懐メロの音楽を流したり、動物のDVDなどを鑑賞したりと、その日その日の利用者に合わせて、くつろげる環境づくりを目指している。リビングには毎月の利用者の写真、季節に応じた挨拶文を貼りだし、なるべく、パソコンではなく、手書きを心掛けている。	玄関入り口前の歩道沿いに小川が流れており、歩道には木々が並びその木の根元には地域住民や利用者・職員が整備している季節の花々が咲いており、ホームの利用者だけでなく地域の住民の方たちの気持ちが潤うような雰囲気があります。広い玄関を入るとリビング、ダイニングには季節を感じられる飾りや外出時の写真等が飾られ、温かみのある空間づくりがされています。リビングは明るく、適温に保たれています。リビングや壁には利用者の手芸作品や職員と一緒に作った「利用者さんの言葉」「スタッフの言葉」などを飾って、季節感やぬくもりを演出しています。食堂テーブルやソファコーナーではテレビを見たり、音楽を聞いたり、洗濯物をたたんだりと利用者はそれぞれにゆったりと過ごしています。中庭には広いテラスと庭園があり、家庭菜園が設けられています。菜園では野菜などを作っており、季節の野菜で食卓が自然を感じられる工夫もしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで座る椅子以外に、リクライニングソファで休まれる方もおり、それぞれの自由な暮らしを、本人たちに選択してもらっている。ほとんどの方がリビングの自分の居場所(それぞれの座布団)を分かっておられ、安心して過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を入居時は持ち込んでもらっている。こだわりのカバン、こだわりの歌手、こだわりのひざ掛けなど、入居され、認知の状態の変化に応じて、利用者各々が居心地の良いものなどを自然に選んで暮らしている。	居室入口には職員が作った千代紙の表札を飾るなど自室がわかるようになっています。ベッド、エアコン、カーテンはホームが用意しています。入居時には、タンス、テレビ、時計、仏壇、家族の写真、人形等それぞれの思い出の物を持ち込んで、自分で好きなように配置しています。利用者の好きな歌手のポスターを壁に貼ったり、手作りの作品や絵等を飾ったりして職員は居心地良く過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由な暮らしを提供しているが、利用者の安全を第一に考え、危険な場所への侵入には張り紙などをして、工夫している。		